

附属病院看護部における看護研究誌「葦」第44号が発刊される運びとなりました。本年は平成24年度、25年度の看護研究・実践報告をまとめて掲載しています。

忙しい日々の臨床の中で看護研究をする意義を少し考えてみたいと思います。最終の目的は、患者さんにより質の高い看護を提供するために、これでよいのだろうか、という疑問が浮かび、こうすればもっとよくなるのでは、という方法が浮かび、そして研究を行った上で結果を患者さんに還元することで研究を始める前より質の高い看護になる。ということが研究の意義だと思います。

もう少し詳しく考えてみます。まず看護研究をやってみるきっかけとして、日々の看護の中から疑問点を抽出しその解決に向けて個人であるいはグループで研究するのが通例の研究であろうかと思います。そこにはまず疑問があり、その疑問に対して教科書などの成書に解決策が載っているのかどうかの調査から入ります。そして成書を読んでも満足いく結果を得られなかったときは、過去にさかのぼって文献の検索を行います。同様の研究があるが昔の研究で、古いなあ、と感じたり、あるいは内容に疑問を持ったりするような論文の場合、新しく研究方法を組み立てます。この時点で、目的、方法、結果がほとんど出来上がります。もちろん研究を始める前の結果は一つではなく、時には否定されるような内容であったり、また何通りもあったりするかもしれません。そういった結果も研究を始める前から推定しておく必要があります。また、認められる結果を出すためには症例数は何例必要なのか、なども前もって計算できます。ここまでで発表の形だけでなく論文の下地も出来上がります。そして研究を開始し、そこで少しずつ結果を積み立て、途中で壁にぶつかることもあるでしょう。それを解決するための方法を考えた場合、他の論文を調べた場合などの経過が考察として発表の中でも論文の中でも出来上がってきます。また研究を始める前に感じた疑問などを過去の論文と比較したことも考察の中で検討されることになります。研究をすることは重要です。しかしそれを発表し多くの人に知ってもらうことがもっと重要です。同様の疑問を持った人に対して同じ研究をしなくてもこういう結果ですよ、と示すことで質の高い看護が広まります。最後に論文発表の方法ですが、書き方にはいろいろなバリエーションがあるかもしれませんが、基本は、序、目的、方法、結果、考察、結論、文献、図表です。そして文献の書き方も一定です。掲載する著者の数、掲載年やページの順番、巻だけなのか号も書くのか、など投稿する雑誌によって異なる場合があります。注意が必要です。この機関誌「葦」でも投稿規定を決めるべきだと思います。

今回の看護研究・実践報告において、日々忙しい看護活動の中にあって意義深い論文がたくさん出されるのを楽しみにしています。